



TITLE:

白浜町番所山へのサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科)の初出 現

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 白浜町番所山へのサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科)の初出現. KINOKUNI 2012, 81: 11-12

ISSUE DATE:

2012-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180721>

RIGHT:

© 和歌山昆虫研究会

白浜町番所山へのサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科)の初出現

First appearance of *Opisthoplattia orientalis* (Blattaria, Blattoidea) at Bansho mountain in Shirahama town,
Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

南方系のゴキブリ類サツマゴキブリ *Opisthoplattia orientalis* は、白浜町では1999年以降記録され、道路上の歩行、あるいは道路上での死亡、および海岸への漂着死亡の記録がなされ、冬季の凍死を免れて定着している(後藤, 2000; 檜山・久保田, 2002, 2010; 久保田, 2006a, b)。白浜半島の基部に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の正門から構内へ入ってすぐの道路上に、本種の生きた1個体が、2010年8月6日の0時頃の真夜中、元気よくはっているのを初めて目撃し、それ以降ずっと、特に2011年には詳細な生息調査を行って、多数が出現していることが判明した(久保田, 2009, 2011a, b)。

2011年、白浜半島先端部にある番所山の遊歩道で毎日のように本種の生息調査を実施したが、本種は昼間も夜間も全く見つからなかった(久保田, 2011a, b)。ところが、今回、極寒の2012年2月下旬、番所山の頂上(標高31m)に所在する南方熊楠館の建物の脇に捨てられていた空き缶1個の中で越冬中の生きた25個体が見つかったので報告する(図1)。さらに、南方熊楠館の職員は、2011年10月中旬、頂上より低い位置にある遊歩道の脇に設置された1個のタバコの吸殻入れ中に、生きた本種2個体を見つけたという情報も得た。従って、2010年にはサツマゴキブリは瀬戸臨海実験所構内から番所山にかけて分布を広げたといえる。



図1 白浜町の番所山頂上で越冬していた多数のサツマゴキブリ

謝 辞

貴重な情報を下さった南方熊楠館の職員の方々に深謝致します。

引用文献

- 後藤 伸. 2000. 「虫たちの熊野」. pp. 77-81, 初版第1版, 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県.
檜山 嘉郎・久保田 信. 2002. 和歌山県白浜町産の熱帯系ゴキブリ類 3種(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 南紀生物, 44 (2) : 153-154.
檜山 嘉郎・久保田 信. 2010. 和歌山県白浜町の海岸へ漂着した2個体目のサツマゴキブリ. KINO KUNI, (77) : 22.
久保田 信. 2006a. 「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」. 233pp., 紀伊民報, 田辺市.
久保田 信. 2006b. サツマゴキブリ和歌山県白浜町の海岸へ漂着. KINOKUNI, (70) : 10-11.

- 久保田 信. 2009. 瀬戸臨海実験所構内に出現した熱帯性ゴキブリ類の第3の種, サツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 22: 36.
- 久保田 信. 2011a. 和歌山県白浜町の瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 日本生物地理学会会報, 66: 215-216.
- 久保田 信. 2011b. 夏から初冬に瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 24: 53-56.

(くぼた しん 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

アオスジアゲハ(チョウ目, アゲハチョウ科)の塩分補給

Supply of salt by *Graphium sarpedon nipoponum* (Lepidoptera, Papilionidae)

久保田 信

主として関東以西に分布し南方系のアオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipoponum* Fruhstorfer の1頭(両前翅が多少擦り切れている)が, 和歌山県白浜町の瀬戸臨海実験所“北浜”で, 2012年5月27日の9時15分頃, 潮がかなり満ちている時に, “北浜”の船着き場の東側の岩場と, そこから東に10mほど離れた砂浜で数分ほど飛び回りながら, 満潮線の砂浜でストローのように口を伸ばして海水を吸っていたのが観察された。砂浜に点々と打ち上げられたホンダワラ類にもとまって吸水した。

前報の同科のモンキアゲハに続き(久保田, 2011a), 本種も1日の内で温度が高くない朝に吸水し, この行動は体温調節ではなく塩分補給であろう。同様に白浜町の瀬戸漁港でもセセリチョウの一種が同じような吸水行動をした(久保田, 2011b)。

引用文献

- 久保田 信. 2011a. モンキアゲハ(チョウ目, アゲハチョウ科)の塩分補給 KINOKUNI, (79): 15.
- 久保田 信. 2011b. セセリチョウの一種(チョウ目, セセリチョウ亜科)の塩分補給. KINOKUNI, (80): 15.

(くぼた しん 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)